# Bericht aus Deutschland

田口理穂＊ドイツのエコあれこれ　No. 34

## 日本の学校とドイツの学校

前号の「AKIRA の成長記録」に日本の学校とドイツの学校の違いについて少し書きましたが、もう少し詳しくお伝えしようと思います。

ドイツの小学校は 4 年生までで、5 年生から学校が分かれます。3 コースあり、のちに職業学校に入り職人や労働者をめざす基幹学校、事務職をはじめ保育士や看護師など専門職を目指す実践学校、そして大学入学を念頭にしたギムナジウムです。

最近はこの 3 つが一緒になった統合学校があり、そこでは学年が上がるにつれて校内でコースが分かれます。

成績がよいとギムナジウムに進む傾向にありますが、州によっては成績に関係なく親と子どもの希望で学校を決めることができます。定員オーバーの時はくじ引きですから成績は関係ありません。この制度について「5 年生で将来を決めるのか」という批判をときどき聞きますが、後からコースを変えることは可能であり、私は理不尽な制度だとは思いません。

大学に行くのがすべてではなく、その子の適性にあった教育に早期に切り替えるという点で悪くないと思います。ギムナジウムに入っても勉強についていけなければ留年し、同じ学年を 2 度留年すると学校を変わらなければなりません。反対に成績がよければ基幹学校や実践学校からギムナジウムに転校できます。受験がないため塾もなく、成績が悪い子は家庭教師をつけることがあります。

大学に入るには、ギムナジウム卒業時の成績を添付して入学申請をします。何校にも出せ、大学は応募者の中から成績順に選びます。日本のように偏差値による序列はなく、学部や教授によって人気はさまざま。

入学後の転部や転校もよくあります。大学は授業料自体は無料ですが、事務費として年 10 万円ほど納め、そこには路面電車のチケットや無料での弁護士相談費などが含まれています。親の収入が少ない人は、生活費のために返済なしの奨学金が受けられます。

10 月に 15 歳になった明は、夏休み明けからギムナジウムで 10 年生（日本でいうと高校 1 年）です。5 年生に今の学校に入ったとき 1 クラス 30 人でしたが、今は転校や留年で 25 人となりました。二人担任制で入学して 3 年で一度担任が変わりましたが、クラス替えは一度もなくこのまま 13 年生（高校 4 年）までいきます。

ドイツの学校では朝の会や終わりの会はなく、日本のような体育祭や文化祭もありません。というか体育大会というのが年に一度あるのですが、そのために練習するわけでも親が見にくるわけでもなく、ただ子どもたちが 1 日中サッカーやホッケーやマラソンなど運動するというだけです。

部活もなく、希望者には週一度のサークルがありますが、スポーツや音楽は、地域のクラブで学びます。明も学外でバスケットクラブに入っており、週 2 回の練習のほか、週末に試合があります。指導者はボランティアでやっているため、月謝は月 1500 円ほど。収入に関係なく子ども手当が月 2 万 8000 円ほど出ますし、日本のように教育費がかかることもありません。

ドイツではナチス時代の教訓から、自分の頭で考える教育が重視されてきました。上司や教師の指示に無条件に従うのではなく、善悪の判断を自分でつけることが重要です。

また子どもに対しては「本人のやる気が出るまで待つ」が基本。 日本だと習い事も真剣ですが、ドイツは楽しむためにやるので無理しません。一方、本人の意志や自由を尊重するあまり「自分の思うようにできて当たり前」という子が多いように見受けられます。我慢大会みたいな日本の教育をくぐり抜けた私からみると、ドイツの子は我慢が足りないし、わがまま放題に見える。

けれど、そもそもそんな根気は必要なのでしょうか。理不尽な我慢を強いられ続けていると、他人に強いることにも無頓着になります。一方ドイツは協調圧力が少なく「他人は他人、私は私」であり、集団行動は苦手。

信州の学校でクラスメート（右が明）

だから明は日本の小学校で初めて整列や右向け右を習い、面白がっていました。

明は 8 月後半から 10 月末まで 2 ヶ月半、日本の中学校に通いました。コロナ禍により 3 年ぶりの帰省となり、義務教育最後にぎりぎりセーフでした。明は最初しぶしぶでしたが、通い始めて数日で「早く明日が来ないかな、早く学校行きたいな」というほど気に入りました。受験を控えて休み時間に勉強するクラスメートを見て「勉強の面白さがわかった。ドイツの学校はゆるすぎる」と言い、合唱や体育祭に向けて朝練など熱心に取り組む姿に「一体感がある。ドイツではありえない」と感激しました。

明が計算したところ、通っていた日本の学校の授業時間は 24 時間でドイツの 25 時間とほぼ同じ。しかし学校にいる時間は日本 40 時間、ドイツ 31 時間と 9 時間も長いのです。ドイツでは勉学のため登校しますが、日本では集団生活の意味が強い。それはいいことなのか悪いことなのか意見が分かれるところでしょう。一体感からはじき出された子はどうすればいいのか。日本で教師をしている友人は「日本の中学校は軍隊と同じ、全体主義の権化。教員の作ったルールに従うことが善になるから、賢い子は期待された生徒を演じるし、学校という体制の愚かさを見抜けない子は自己決定しなくてよいことが心地よくなり根源的に問うことをしなくなる」と痛烈に批判しますが、それも一理あると感じました。

ともあれ 3 年ぶりの実家で私は仕事も家事もろくにせずリフレッシュ。明は中学校のよいところを堪能し、最高の 3 ヶ月となりました。

ごみかんドイツ特派員　田口 理穂